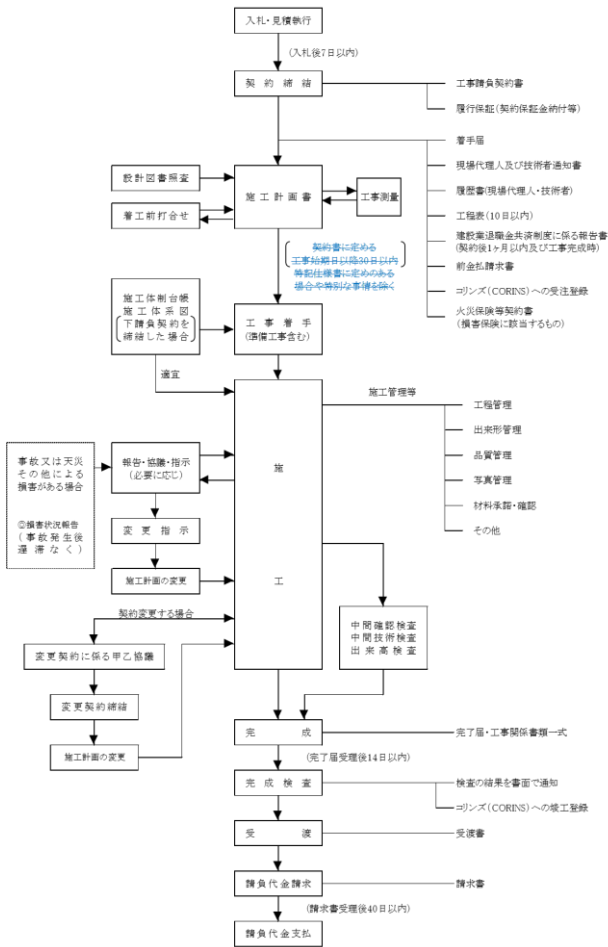


施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--------------|------------|
|--------------|------------|

2 工事請負契約から工事完成までの流れ



3 主任（監理）技術者等

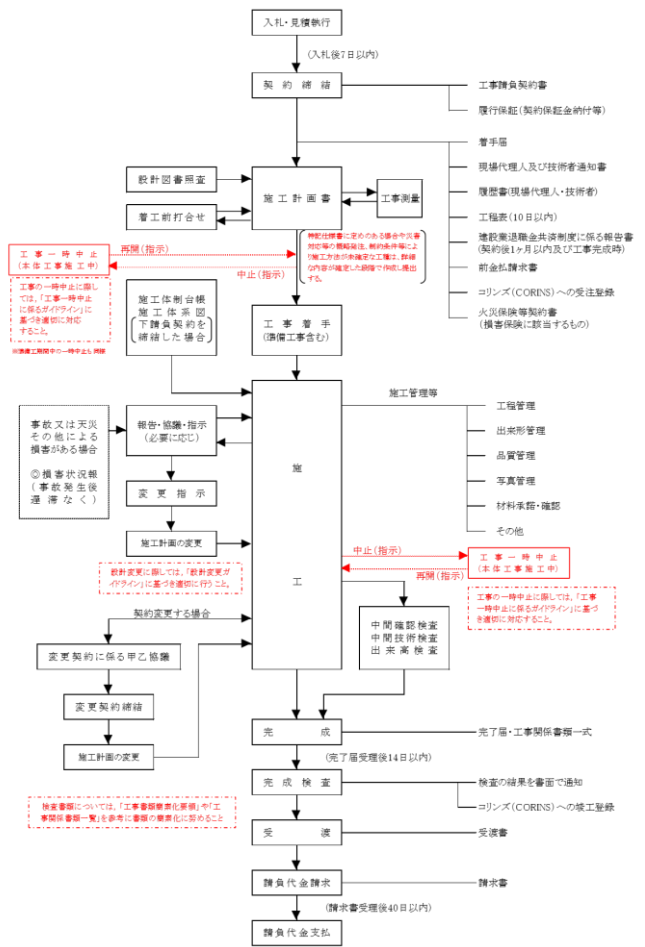
3.1 一般

主任（監理）技術者は、建設業法第26条（主任技術者及び監理技術者の設置等）及び工事請負契約書第10条（現場代理人及び主任技術者等）に基づき、常時継続的に当該建設工事の現場に置かれていなければならない。

また、建設業法第26条第3項において、公共性のある施設もしくは工作物または多数の者が利用する施設もしくは工作物に関する重要な建設工事（工事1件の請負代金額が3,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上のもの）については、主任（監理）技術者は、工事現場ごとに「専任の者」でなければならないと規定されている。なお、監理技術者は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者又はこれと同等の資格を有する者であること。又「専任の者」とは、その工事現場に常勤し、専ら職務に従事することを要する者である。

現場代理人については、工事請負契約書第10条（現場代理人及び主任技術者

2 工事請負契約から工事完成までの流れ



3 主任（監理）技術者等

3.1 一般

主任（監理）技術者は、建設業法第26条（主任技術者及び監理技術者の設置等）及び工事請負契約書第10条（現場代理人、主任技術者等及び専門技術者）に基づき、常時継続的に当該建設工事の現場に置かれていなければならない。

また、建設業法第26条第3項において、公共性のある施設もしくは工作物または多数の者が利用する施設もしくは工作物に関する重要な建設工事（工事1件の請負代金額が3,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上のもの）については、主任（監理）技術者は、工事現場ごとに「専任の者」でなければならないと規定されている。なお、監理技術者は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者又はこれと同等の資格を有する者であること。又「専任の者」とは、その工事現場に常勤し、専ら職務に従事することを要する者である。

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--|---|
| <p>等)に基づき、当該工事現場に常駐しなければならないとされている。</p> <p>工事現場におくべき主任(監理)技術者の資格は、下記のとおり規定されている。</p> | <p>現場代理人については、工事請負契約書第10条(現場代理人、主任技術者等及び専門技術者)に基づき、当該工事現場に常駐しなければならないとされている。</p> <p>工事現場におくべき主任(監理)技術者の資格は、下記のとおり規定されている。</p> |

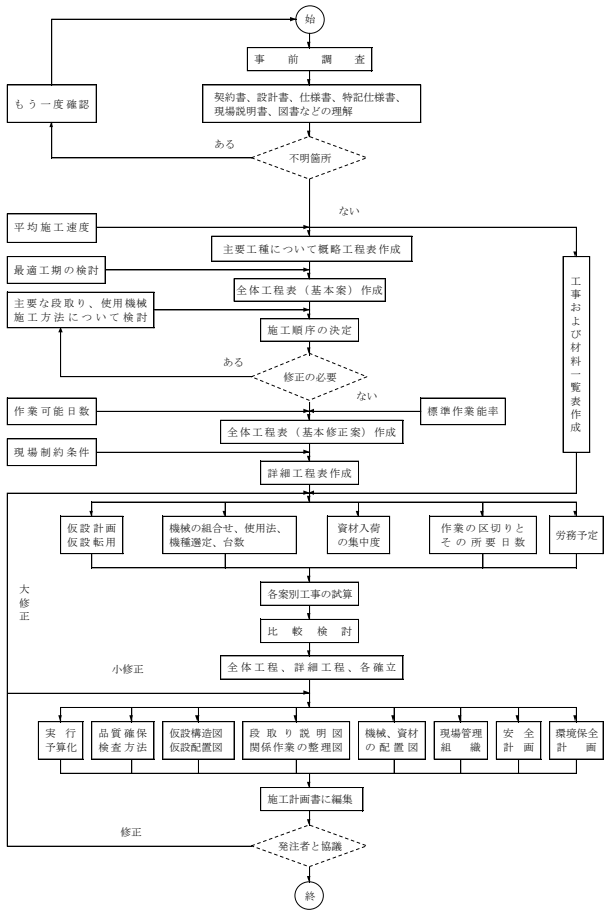
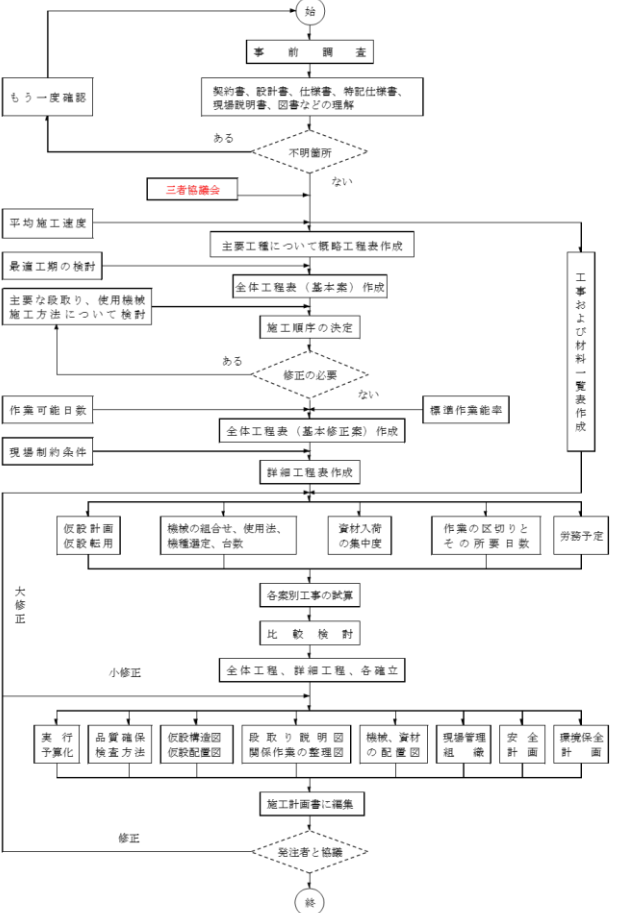
施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|---|---|
| <p>2 施工計画書</p> <p>2.1 施工計画の目的</p> <p>施工計画作成の目的は、図面・仕様書等に定められた工事目的物を完成するために必要な手順や工法及び施工中の管理をどうするか等定めるものであり、工事の施工・施工管理の最も基本となるものである。</p> <p>土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-4 施工計画書 1. 一般事項に、「受注者は、工事着手前に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を、監督職員に提出しなければならない。」と規定している。従って、施工計画書は、受注者の責任において作成するもので、発注者が施工方法等の選択について注文をつけるものではない。</p> <p>また、施工計画書には、下記の事項について記載するよう規定されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 工事概要 (2) 計画工程表 (3) 現場組織表 (4) 指定機械 (5) 主要船舶・機械 (6) 主要資材 (7) 施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む） (8) 施工管理計画 (9) 安全管理 (10) 緊急時の体制及び対応 (11) 交通管理 (12) 環境対策 (13) 現場作業環境の整備 (14) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 (15) その他 <p>さらに、「監督職員がその他の項目について補足を求めた場合には、追記するものとする。</p> <p>この外、2. 変更施工計画書には「受注者は、施工計画書の内容に重要な変更が生じた場合には、その都度当該工事に着手する前に変更に関する事項について、変更施工計画書を監督職員に提出しなければならない。」</p> <p>また、3. 詳細施工計画書には「監督職員が指示した事項について、さらに詳細な施工計画書を提出しなければならない。」と規定されている。</p> <p>ただし、主要資材については、材料承諾願により確認できることとして、工事書類簡素化要領（土木工事編）に基づき記載不要としている。</p> | <p>2 施工計画書</p> <p>2.1 施工計画の目的</p> <p>施工計画作成の目的は、図面・仕様書等に定められた工事目的物を完成するために必要な手順や工法及び施工中の管理をどうするか等定めるものであり、工事の施工・施工管理の最も基本となるものである。</p> <p>土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-4 施工計画書 1. 一般事項に、「受注者は、工事着手前に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を、監督職員に提出しなければならない。」と規定している。従って、施工計画書は、受注者の責任において作成するもので、発注者が施工方法等の選択について注文をつけるものではない。</p> <p>また、施工計画書には、下記の事項について記載するよう規定されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 工事概要 (2) 計画工程表 (3) 現場組織表 (4) 指定機械 (5) 主要船舶・機械 (6) 主要資材 (7) 施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む） (8) 施工管理計画 (9) 安全管理 (10) 緊急時の体制及び対応 (11) 交通管理 (12) 環境対策 (13) 現場作業環境の整備 (14) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 (15) その他 <p>さらに、「監督職員がその他の項目について補足を求めた場合には、追記するものとする。ただし、受注者は維持工事等簡易な工事においては、監督職員の承諾を得て記載内容の一部を省略することができる。」</p> <p>この外、2. 変更施工計画書には「受注者は、施工計画書の内容に重要な変更が生じた場合には、その都度当該工事に着手する前に変更に関する事項について、変更施工計画書を監督職員に提出しなければならない。」</p> <p>また、3. 詳細施工計画書には「監督職員が指示した事項について、さらに詳細な施工計画書を提出しなければならない。」と規定されている。</p> <p>ただし、工期や数量だけの軽微な変更で施工計画に大きく影響しない場合は、変更施工計画書の提出は要しない。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | | 福岡市 改定 R2.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|-----|---------|---------------------------------------|-----------|--------------------------|-----------|--------------------|---------|------------------------------|---------|-------------------|---------|------------------|---------|---|-------------|------|--------------|------|---------|------|---------|-------|----------|---------|---|------------|--------------------------|---------|-----------|---------|-------------------|-----------|----------------------|-------------------------|-----------------------|-------|----------------------------------|---|--|------|-----|---------|---------------------------------------|-----------|--------------------------|-----------|--------------------|---------|------------------------------|---------|-------------------|---------|------------------|---------|---|-------------|------|--------------|------|---------|------|---------|-------|----------|---------|---|------------|--------------------------|---------|-----------|---------|-------------------|-----------|----------------------|-------------------------|--|-------|----------------------------------|
| <p>2.2 施工計画書記載事項の内容</p> <p>土木工事共通仕様書に規定されている記載事項の標準的内容は下表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記載事項</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工 事 概 要</td> <td>工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容</td> </tr> <tr> <td>計 画 工 程 表</td> <td>横棒式工程表、斜線式工程表、ネットワーク等で作成</td> </tr> <tr> <td>現 場 組 織 表</td> <td>現場の組織、編成、命令系統、業務分担</td> </tr> <tr> <td>指 定 機 械</td> <td>設計図書で指定されている機械・監督職員が必要と認めた機械</td> </tr> <tr> <td>主要船舶・機械</td> <td>設計図書で指定されていない使用機械</td> </tr> <tr> <td>主 要 資 材</td> <td>指定材料、主要材料、材料試験方法</td> </tr> <tr> <td>施 工 方 法</td> <td>主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">施 工 管 理 計 画</td> <td>工程管理</td> <td>実施工程の手法・管理方法</td> </tr> <tr> <td>品質管理</td> <td>品質管理計画表</td> </tr> <tr> <td>写真管理</td> <td>写真管理計画表</td> </tr> <tr> <td>出来形管理</td> <td>出来形管理計画表</td> </tr> <tr> <td>安 全 管 理</td> <td>安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針</td> </tr> <tr> <td>緊急時の体制及び対応</td> <td>事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制</td> </tr> <tr> <td>交 通 管 理</td> <td>交通管理、交通処理</td> </tr> <tr> <td>環 境 対 策</td> <td>大気汚染・水質汚濁・振動・騒音対策</td> </tr> <tr> <td>現場作業環境の整備</td> <td>現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策</td> </tr> <tr> <td>再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法</td> <td>再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。</td> </tr> </tbody> </table> | | 記載事項 | 内 容 | 工 事 概 要 | 工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容 | 計 画 工 程 表 | 横棒式工程表、斜線式工程表、ネットワーク等で作成 | 現 場 組 織 表 | 現場の組織、編成、命令系統、業務分担 | 指 定 機 械 | 設計図書で指定されている機械・監督職員が必要と認めた機械 | 主要船舶・機械 | 設計図書で指定されていない使用機械 | 主 要 資 材 | 指定材料、主要材料、材料試験方法 | 施 工 方 法 | 主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容 | 施 工 管 理 計 画 | 工程管理 | 実施工程の手法・管理方法 | 品質管理 | 品質管理計画表 | 写真管理 | 写真管理計画表 | 出来形管理 | 出来形管理計画表 | 安 全 管 理 | 安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針 | 緊急時の体制及び対応 | 事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制 | 交 通 管 理 | 交通管理、交通処理 | 環 境 対 策 | 大気汚染・水質汚濁・振動・騒音対策 | 現場作業環境の整備 | 現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策 | 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | 再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書 | そ の 他 | 契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。 | <p>また、主要資材については、材料承諾願により確認できることとして、工事書類簡素化要領（土木工事編）に基づき記載不要としている。</p> <p>2.2 施工計画書記載事項の内容</p> <p>土木工事共通仕様書に規定されている記載事項の標準的内容は下表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記載事項</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工 事 概 要</td> <td>工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容</td> </tr> <tr> <td>計 画 工 程 表</td> <td>横棒式工程表、斜線式工程表、ネットワーク等で作成</td> </tr> <tr> <td>現 場 組 織 表</td> <td>現場の組織、編成、命令系統、業務分担</td> </tr> <tr> <td>指 定 機 械</td> <td>設計図書で指定されている機械・監督職員が必要と認めた機械</td> </tr> <tr> <td>主要船舶・機械</td> <td>設計図書で指定されていない使用機械</td> </tr> <tr> <td>主 要 資 材</td> <td>指定材料、主要材料、材料試験方法</td> </tr> <tr> <td>施 工 方 法</td> <td>主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">施 工 管 理 計 画</td> <td>工程管理</td> <td>実施工程の手法・管理方法</td> </tr> <tr> <td>品質管理</td> <td>品質管理計画表</td> </tr> <tr> <td>写真管理</td> <td>写真管理計画表</td> </tr> <tr> <td>出来形管理</td> <td>出来形管理計画表</td> </tr> <tr> <td>安 全 管 理</td> <td>安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針</td> </tr> <tr> <td>緊急時の体制及び対応</td> <td>事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制</td> </tr> <tr> <td>交 通 管 理</td> <td>交通管理、交通処理</td> </tr> <tr> <td>環 境 対 策</td> <td>大気汚染・水質汚濁・振動・騒音対策</td> </tr> <tr> <td>現場作業環境の整備</td> <td>現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策</td> </tr> <tr> <td>再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法</td> <td>再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書、建設発生土受入承諾書 ※建設発生土の処分先が桜井処分場の場合、搬入経路図を添付</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td>契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。</td> </tr> </tbody> </table> | | 記載事項 | 内 容 | 工 事 概 要 | 工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容 | 計 画 工 程 表 | 横棒式工程表、斜線式工程表、ネットワーク等で作成 | 現 場 組 織 表 | 現場の組織、編成、命令系統、業務分担 | 指 定 機 械 | 設計図書で指定されている機械・監督職員が必要と認めた機械 | 主要船舶・機械 | 設計図書で指定されていない使用機械 | 主 要 資 材 | 指定材料、主要材料、材料試験方法 | 施 工 方 法 | 主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容 | 施 工 管 理 計 画 | 工程管理 | 実施工程の手法・管理方法 | 品質管理 | 品質管理計画表 | 写真管理 | 写真管理計画表 | 出来形管理 | 出来形管理計画表 | 安 全 管 理 | 安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針 | 緊急時の体制及び対応 | 事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制 | 交 通 管 理 | 交通管理、交通処理 | 環 境 対 策 | 大気汚染・水質汚濁・振動・騒音対策 | 現場作業環境の整備 | 現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策 | 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | 再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書、建設発生土受入承諾書 ※建設発生土の処分先が桜井処分場の場合、搬入経路図を添付 | そ の 他 | 契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。 |
| 記載事項 | 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 事 概 要 | 工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 画 工 程 表 | 横棒式工程表、斜線式工程表、ネットワーク等で作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現 場 組 織 表 | 現場の組織、編成、命令系統、業務分担 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指 定 機 械 | 設計図書で指定されている機械・監督職員が必要と認めた機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要船舶・機械 | 設計図書で指定されていない使用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主 要 資 材 | 指定材料、主要材料、材料試験方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施 工 方 法 | 主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施 工 管 理 計 画 | 工程管理 | 実施工程の手法・管理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 品質管理 | 品質管理計画表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 写真管理 | 写真管理計画表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 出来形管理 | 出来形管理計画表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安 全 管 理 | 安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急時の体制及び対応 | 事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 交 通 管 理 | 交通管理、交通処理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環 境 対 策 | 大気汚染・水質汚濁・振動・騒音対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現場作業環境の整備 | 現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | 再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| そ の 他 | 契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記載事項 | 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 事 概 要 | 工事名、河川又は路線名、工事場所、工期、請負代金、発注者、受注者、工事内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 画 工 程 表 | 横棒式工程表、斜線式工程表、ネットワーク等で作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現 場 組 織 表 | 現場の組織、編成、命令系統、業務分担 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指 定 機 械 | 設計図書で指定されている機械・監督職員が必要と認めた機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要船舶・機械 | 設計図書で指定されていない使用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主 要 資 材 | 指定材料、主要材料、材料試験方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施 工 方 法 | 主要工種毎の作業フロー、施工方法、使用機械、仮設備の構造配置、仮設建物、材料、機械等の仮置場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備、指示・承諾・協議事項の予定内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施 工 管 理 計 画 | 工程管理 | 実施工程の手法・管理方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 品質管理 | 品質管理計画表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 写真管理 | 写真管理計画表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 出来形管理 | 出来形管理計画表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安 全 管 理 | 安全管理体制、安全対策、異常気象時の防災対策、安全訓練の実施方法、安全巡視の実施方法、安全活動方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急時の体制及び対応 | 事故発生時の連絡系統図、対応策 災害発生時の体制 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 交 通 管 理 | 交通管理、交通処理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環 境 対 策 | 大気汚染・水質汚濁・振動・騒音対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現場作業環境の整備 | 現場作業環境に関する仮設、安全、営繕対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | 再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書、建設発生土受入承諾書 ※建設発生土の処分先が桜井処分場の場合、搬入経路図を添付 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| そ の 他 | 契約図書及び監督職員の指示で、施工計画書に記載を必要とするもの。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>ただし、主要資材については、材料承諾願により確認できることとして、工事書類簡素化要領（土木工事編）に基づき記載不要としている。</p> | | <p>ただし、主要資材については、材料承諾願により確認できることとして、工事書類簡素化要領（土木工事編）に基づき記載不要としている。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|---|--|
| <p>2.3.3 施工計画書作成フロー図</p>  | <p>2.3.3 施工計画書作成フロー図</p>  |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|---|--|
| <p>3 設計図書の照査・工事測量の成果（着工前測量）</p> <p>3.2 着工前測量成果簿</p> <p>3.2.1 目的</p> <p>土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-37 工事測量 1. 一般事項に、下記のとおり規定されている。</p> <p>1 受注者は、工事着手後速やかに測量を実施し、測量標（仮BM）、工事用多角点の設置及び用地境界、中心線、縦断、横断等を確認しなければならない。測量結果が設計図書に示されている数値と差異を生じた場合は監督職員に測量結果を速やかに提出し指示を受けなければならない。</p> <p>なお、測量標（仮BM）及び多角点を設置するための基準となる点の選定は、監督職員の指示を受けなければならない。また受注者は、測量結果を監督職員に提出しなければならない。</p> <p>測量は土木工事の中で基本的なことであり且つ、構造物の出来形を左右する最も重要な作業である。</p> | <p>3 設計図書の照査・工事測量の成果（着工前測量）</p> <p>3.2 着工前測量成果簿</p> <p>3.2.1 目的</p> <p>土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-37 工事測量 1. 一般事項に、下記のとおり規定されている。</p> <p>1 受注者は、工事着手後速やかに測量を実施し、測量標（仮BM）、工事用多角点の設置及び用地境界、中心線、縦断、横断等を確認しなければならない。・・・後略</p> <p>測量は土木工事の中で基本的なことであり且つ、構造物の出来形を左右する最も重要な作業である。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|--|---|
| <p>4 工程管理</p> <p>4.2 工程管理上の留意点</p> <p>(1) 工程表は、組合せ工種が多い工事についてはネットワーク（PERT-CPM）により、単純な工事については横棒式工程表（バーチャート）あるいは斜線式工程表により作成する。他に曲線式工程表があるが、単独ではなく次項作成例に示すとおり、上記各工程表との併用で作成される場合が多い。工事内容に応じて適切な工程表の様式を選択して管理する必要がある。</p> <p>(2) 工程表は全体工程表だけでなく、重点的に管理を行う必要がある部分については、部分（細部）工程表を作成する。</p> <p>(3) 工程の計画に当たっては、契約の完了月日ぎりぎりの工程としないで、工事の規模困難性、施工時期等を勘案して、少なくとも全工期の10～20%程度工期を短縮して計画することが望ましい。</p> <p>(4) 計画工程と実施工程が相違を来たした場合、あるいは予想される場合、または変更指示契約変更があった場合は、残工事に対する変更工程表を作成する。</p> <p>(5) 作成に当たっては、下記の事項を十分考慮して作成する。</p> <p>1) 工事および作業の制約</p> <p>①先行工事や後続工事の関連からの当該工事の着工、完了時期、施工方法。</p> <p>②現道工事等施工箇所の立地条件による施工時期、施工時間、施工方法。</p> <p>③関係機関との協議、工事用地の確保、支障物件の撤去等の有無。</p> <p>④公害防止対策の為の施工時間、施工方法。</p> <p>2) 環境（地形、地質、気象、水理等）を考慮した施工計画</p> <p>3) 施工順序</p> <p>4) 労務、機械の使用計画</p> <p>5) 作業能力及び標準稼働時間の決定</p> <p>6) 工事期間の作業可能日数の算定</p> | <p>4 工程管理</p> <p>4.2 工程管理上の留意点</p> <p>(1) 工程表は、ネットワーク（PERT-CPM）により、作成することを原則とするが、単純な工事については横棒式工程表（バーチャート）あるいは斜線式工程表により作成することができる。</p> <p>工事内容に応じて適切な工程表を選択して管理する必要がある。</p> <p>(2) 工程表は全体工程表だけでなく、重点的に管理を行う必要がある部分については、部分（細部）工程表を作成する。</p> <p>(3) 工程の計画に当たっては、契約の完了月日ぎりぎりの工程としないで、工事の規模困難性、施工時期等を勘案して、少なくとも全工期の10～20%程度工期を短縮して計画することが望ましい。</p> <p>(4) 計画工程と実施工程が相違を来たした場合、あるいは予想される場合、または変更指示契約変更があった場合は、残工事に対する変更工程表を作成する。</p> <p>(5) 作成に当たっては、下記の事項を十分考慮して作成する。</p> <p>1) 工事および作業の制約</p> <p>①先行工事や後続工事の関連からの当該工事の着工、完了時期、施工方法。</p> <p>②現道工事等施工箇所の立地条件による施工時期、施工時間、施工方法。</p> <p>③関係機関との協議、工事用地の確保、支障物件の撤去等の有無。</p> <p>④公害防止対策の為の施工時間、施工方法。</p> <p>2) 環境（地形、地質、気象、水理等）を考慮した施工計画</p> <p>3) 施工順序</p> <p>4) 労務、機械の使用計画</p> <p>5) 作業能力及び標準稼働時間の決定</p> <p>6) 工事期間の作業可能日数の算定</p> <p>4.4 その他</p> <p>実施工程表は、受注者が円滑な工事の実施と、その統制を図るためのものであるので、監督職員への提出は必要とせず、提示でよい。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--|---|
| <p>5 土木施工管理基準</p> <p>5.4 管理の実施</p> <p>(1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。</p> <p>(2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。</p> <p>(3) 受注者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。</p> <p>(4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。</p> <p>5.5 管理項目及び方法</p> <p>(1) 工程管理</p> <p>受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理（ネットワーク、バーチャート方式 など）を行うものとする。</p> <p>ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。</p> <p>(2) 出来形管理</p> <p>受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図表を作成し管理するものとする。</p> <p>(3) 品質管理</p> <p>受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。</p> <p>この品質管理基準の適用は、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。</p> | <p>5 土木施工管理基準</p> <p>5.4 管理の実施</p> <p>(1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。</p> <p>(2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。</p> <p>各種サンプリング試験（試料）については、施工位置や日時が偏らぬよう注意し、必要箇所数を現場に均等に配分した計画を作成した上で事前に監督員と協議を行うこと。</p> <p>(3) 受注者は、施工管理の目的が達せられるよう各工程の適切な時期に測定（試験）等を速やかに実施し、その結果を分析し以後の施工に反映させなければならない。</p> <p>(4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度管理図表等に記録し、監督員の請求が有った場合には直ちに提示できるよう、適切な管理のもと整備・保管しておかななければならない。</p> <p>5.5 管理項目及び方法</p> <p>(1) 工程管理</p> <p>受注者は、工程管理を工事内容に応じた方式（ネットワーク（PERT）又は、バーチャート方式 など）により作成した実施工程表により行うものとする。</p> <p>ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。</p> <p>(2) 出来形管理</p> <p>受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値およびその差を記録した出来形管理図表を作成し管理するものとする。</p> <p>なお、測定基準において、測定箇所数を「〇〇mにつき1箇所」となっている項目については、小数点以下を切り上げた箇所数で測定管理をするものとする。</p> <p>(3) 品質管理</p> <p>受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理し、その管理内容に応じて、品質管理図表等を作成するものとする。</p> <p>この品質管理基準の適用は、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとし、また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。</p> <p>なお、「試験成績書等による確認」に該当する試験項目は試験成績書やマイルシートによって規定の品質（規格値）を満足しているか確認することができ</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--|--|
| <p>(4) 工事写真</p> <p>受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。</p> <p>5.6 規格値</p> <p>受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。</p> <p>また、実測値の平均値（延長等にあつてはその合計延長とする）は、設計値を下回ってはならないものとする。</p> <p>5.7 その他</p> <p>土工において、情報化施工や3次元データによる出来形管理を行う場合は、財政局技術監理課へ相談することとする。</p> | <p>るが、必要に応じて現場検収を実施しなければならない。</p> <p>(4) 工事写真</p> <p>受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。</p> <p>5.6 規格値</p> <p>受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足するよう、常に確認しながら施工管理を実施しなければならない。</p> <p>また、実測値の平均値（延長等にあつてはその合計延長とする）は、設計値を下回ってはならないものとする。</p> <p>5.7 その他</p> <p>土工において、情報化施工や3次元データによる出来形管理を行う場合は、財政局技術監理課へ相談することとする。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|---|---|
| <p>6 出来形管理基準</p> <p>6.3 出来形管理上の留意点</p> <p>(3) 管理</p> <p>1) 規格値</p> <p>測定項目は全て規格値を満足していなければならない。設計値に対する測定値のバラツキ度合いは「土木工事の規格値」と照合して合否を判断する。規格値とは、測定値個々の値と設計値との施工誤差の許容範囲を示したもので、規格値が(－)で示されているから、総て(－)で施工してよいというものではない。</p> <p>2) 特殊な場合の設計値の表示方法</p> <p>下記に示す事項等で、基準高、法長又は高さ、延長等が設計変更を伴わない程度で設計値と微小な差異を生じ、且つ設計数量を満足している場合は、監督職員の承諾を得てその値を設計値として出来形管理を行ってよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地取り合い ・コンクリートブロック積(張)の段割り <p>3) 基礎杭等の偏心</p> <p>基礎杭及び井筒の偏心については、測定の結果を偏心の状態が明確に判断できるような適切な方法で図示する。又、規格値内であっても、その偏心量が大きく、構造に影響を与えるおそれがある場合には、構造計算を行い安全性の確認を行う。</p> <p>4) 出来形管理の方法</p> <p>出来形管理の方法は下記の通り分類される。</p> <p>【出来形管理展開図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計数量が面積又は延長で示されているものの管理に適している。 ・面積表示の代表的な工種はコンクリートブロック積(張)、土羽工等である。 ・延長表示は出来高に該当する工種が多いが、作成例の道路改築工事全体展開通り、出来形と同一図面に記入する。延長表示の代表的な工種は、側溝、縁石、コンクリート擁壁工等である。 <p>【設計図利用出来形管理図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面、断面、側面等複雑な構造の工種の管理に適している。 ・代表的な工種としては、橋梁上下部工、函渠工、樋門、水門等の構造物である。 <p>【出来形管理図表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準断面図及び設計値、実測値等を一覧表にして示した管理図表である。 ・特殊な工種を除き当管理図で管理される。 | <p>6 出来形管理基準</p> <p>6.3 出来形管理上の留意点</p> <p>(3) 管理</p> <p>1) 規格値</p> <p>測定項目は全て規格値を満足していなければならない。設計値に対する測定値のバラツキ度合いは「土木工事の規格値」と照合して合否を判断する。規格値とは、測定値個々の値と設計値との施工誤差の許容範囲を示したもので、規格値が(－)で示されているから、総て(－)で施工してよいものではなく、実測値の平均値は設計値を下回ってはならない。</p> <p>2) 特殊な場合の設計値の表示方法</p> <p>下記に示す事項等で、基準高、法長又は高さ、延長等が設計変更を伴わない程度で設計値と微小な差異を生じ、且つ設計数量を満足している場合は、監督職員の承諾を得てその値を設計値として出来形管理を行ってよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地取り合い ・コンクリートブロック積(張)の段割り <p>3) 基礎杭等の偏心</p> <p>基礎杭及び井筒の偏心については、測定の結果を偏心の状態が明確に判断できるような適切な方法で図示する。又、規格値内であっても、その偏心量が大きく、構造に影響を与えるおそれがある場合には、構造計算を行い安全性の確認を行う。</p> <p>4) 出来形管理の方法</p> <p>出来形管理の方法は下記の通り分類される。</p> <p>【出来形管理展開図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計数量が面積又は延長で示されているものの管理に適している。 ・面積表示の代表的な工種はコンクリートブロック積(張)、土羽工等である。 ・延長表示は出来高に該当する工種が多いが、作成例の道路改築工事全体展開通り、出来形と同一図面に記入する。延長表示の代表的な工種は、側溝、縁石、コンクリート擁壁工等である。 <p>【設計図利用出来形管理図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面、断面、側面等複雑な構造の工種の管理に適している。 ・代表的な工種としては、橋梁上下部工、函渠工、樋門、水門等の構造物である。 <p>【出来形管理図表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準断面図及び設計値、実測値等を一覧表にして示した管理図表である。 ・特殊な工種を除き当管理図で管理される。 |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | | | | | 福岡市 改定 R2.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|-------------|--|--------------------|-------------|----|------|------|----|------------|----|--------|--|--------------|--------|---|--|----|------|------|--|------------------|----|---|------------|---|--------------------|-----------|-----------------------------|------------|-----|---|-------------|----------------------------|--|--------|--------------------------------------|--|--|--|--|--|--|----|----|------|------|----|------------|----|--------|--|--------------|--------|---|--|----|------|------|--|------------------|----|---|------------|---|--------------------|-----------|-----------------------------|------------|-----|---|-------------|----------------------------|--|--------|--------------------------------------|--|
| <p>7 品質管理基準</p> <p>7.3 公的試験機関での品質管理試験を行う項目</p> <p>品質管理基準により義務付けられた品質管理試験項目のうち、次表に示す品質管理試験項目については、公的試験機関（次ページ 注1参照）での試験の実施を義務付けるものとする。また、次表以外の品質管理試験であっても、設計図書や監督職員の指示により、公的試験機関での実施を指示することがあるので、その場合は同様に公的試験機関で実施するものとする。</p> <p style="text-align: center;">公的試験機関での品質管理試験の実施を義務付ける項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工種</th> <th>種別</th> <th>試験項目</th> <th>試験基準</th> <th>適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">セメントコンクリート</td> <td rowspan="2">コク</td> <td>圧縮強度試験</td> <td>1)対象構造物（次ページ注2）の場合 ① 鉄筋構造物の場合 打設日1日につきσ7強度及びσ28強度それぞれ2回ずつの試験を行い、うちそれぞれ1回を公的試験機関にて実施 ② 無筋構造物の場合 打設日1日につきσ7強度及びσ28強度それぞれ1回ずつの試験を公的試験機関にて実施 2)対象構造物以外の場合（50m3未満は省略） 打設数量50m3ごとにσ7強度及びσ28強度それぞれ1回ずつの試験を行い、うちσ28強度の試験を公的試験機関にて実施</td> <td>別紙フロー図を参照のこと</td> </tr> <tr> <td>曲げ強度試験</td> <td>コンクリート舗装の場合で、打設日1日につき2回（午前・午後）のσ28強度の試験。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼材</td> <td>ガス圧接</td> <td>引張試験</td> <td>1)手動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片5本 2)自動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片2本</td> <td>試験片の作成は鉄筋径毎に行うこと</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土工</td> <td rowspan="2">土</td> <td>砂河川土の突固め試験</td> <td>500m3以上の盛土を行う道路及び砂防工事で、当初及び土質の変化時の試験。（路床と同一材料の路体盛土は、路床の品質管理試験のみで良い）。河川土工の盛土は、当初及び土質の変化時の試験。</td> <td>河川、砂防の盛土及び道路の路体盛土材</td> </tr> <tr> <td>修正 CBR 試験</td> <td>道路の路床工事の盛土材で、当初及び土質の変化時の試験。</td> <td>土の突固め試験も必要</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舗装工</td> <td rowspan="2">舗</td> <td>置路修正 CBR 試験</td> <td>道路の置換材料について、当初及び土質の変化時の試験。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リ転圧コンク</td> <td>打設日1日につき2回（午前・午後）のσ28強度の試験。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 工種 | 種別 | 試験項目 | 試験基準 | 適用 | セメントコンクリート | コク | 圧縮強度試験 | 1)対象構造物（次ページ注2）の場合 ① 鉄筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ2回ずつの試験を行い、うちそれぞれ1回を公的試験機関にて実施 ② 無筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を公的試験機関にて実施 2)対象構造物以外の場合（50m3未満は省略） 打設数量50m3ごとに σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を行い、うち σ 28強度の試験を公的試験機関にて実施 | 別紙フロー図を参照のこと | 曲げ強度試験 | コンクリート舗装の場合で、打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | 鋼材 | ガス圧接 | 引張試験 | 1)手動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片5本 2)自動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片2本 | 試験片の作成は鉄筋径毎に行うこと | 土工 | 土 | 砂河川土の突固め試験 | 500m3以上の盛土を行う道路及び砂防工事で、当初及び土質の変化時の試験。（路床と同一材料の路体盛土は、路床の品質管理試験のみで良い）。河川土工の盛土は、当初及び土質の変化時の試験。 | 河川、砂防の盛土及び道路の路体盛土材 | 修正 CBR 試験 | 道路の路床工事の盛土材で、当初及び土質の変化時の試験。 | 土の突固め試験も必要 | 舗装工 | 舗 | 置路修正 CBR 試験 | 道路の置換材料について、当初及び土質の変化時の試験。 | | リ転圧コンク | 打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | <p>7 品質管理基準</p> <p>7.5 公的試験機関での品質管理試験を行う項目</p> <p>品質管理基準により義務付けられた品質管理試験項目のうち、次表に示す品質管理試験項目については、公的試験機関（次ページ 注1参照）での試験の実施を義務付けるものとする。また、次表以外の品質管理試験であっても、設計図書や監督職員の指示により、公的試験機関での実施を指示することがあるので、その場合は同様に公的試験機関で実施するものとする。</p> <p style="text-align: center;">公的試験機関での品質管理試験の実施を義務付ける項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工種</th> <th>種別</th> <th>試験項目</th> <th>試験基準</th> <th>適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">セメントコンクリート</td> <td rowspan="2">コク</td> <td>圧縮強度試験</td> <td>1)対象構造物（次ページ注2）の場合 ① 鉄筋構造物の場合 打設日1日につきσ7強度及びσ28強度それぞれ2回ずつの試験を行い、うちそれぞれ1回を公的試験機関にて実施 ② 無筋構造物の場合 打設日1日につきσ7強度及びσ28強度それぞれ1回ずつの試験を公的試験機関にて実施 2)対象構造物以外の場合（50m3未満は省略） 打設数量50m3ごとにσ7強度及びσ28強度それぞれ1回ずつの試験を行い、うちσ28強度の試験を公的試験機関にて実施</td> <td>別紙フロー図を参照のこと</td> </tr> <tr> <td>曲げ強度試験</td> <td>コンクリート舗装の場合で、打設日1日につき2回（午前・午後）のσ28強度の試験。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼材</td> <td>ガス圧接</td> <td>引張試験</td> <td>1)手動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片5本 2)自動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片2本</td> <td>試験片の作成は鉄筋径毎に行うこと</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土工</td> <td rowspan="2">土</td> <td>砂河川土の突固め試験</td> <td>500m3以上の盛土を行う道路及び砂防工事で、当初及び土質の変化時の試験。（路床と同一材料の路体盛土は、路床の品質管理試験のみで良い）。河川土工の盛土は、当初及び土質の変化時の試験。</td> <td>河川、砂防の盛土及び道路の路体盛土材</td> </tr> <tr> <td>修正 CBR 試験</td> <td>道路の路床工事の盛土材で、当初及び土質の変化時の試験。</td> <td>土の突固め試験も必要</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舗装工</td> <td rowspan="2">舗</td> <td>置路修正 CBR 試験</td> <td>道路の置換材料について、当初及び土質の変化時の試験。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リ転圧コンク</td> <td>打設日1日につき2回（午前・午後）のσ28強度の試験。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 工種 | 種別 | 試験項目 | 試験基準 | 適用 | セメントコンクリート | コク | 圧縮強度試験 | 1)対象構造物（次ページ注2）の場合 ① 鉄筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ2回ずつの試験を行い、うちそれぞれ1回を公的試験機関にて実施 ② 無筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を公的試験機関にて実施 2)対象構造物以外の場合（50m3未満は省略） 打設数量50m3ごとに σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を行い、うち σ 28強度の試験を公的試験機関にて実施 | 別紙フロー図を参照のこと | 曲げ強度試験 | コンクリート舗装の場合で、打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | 鋼材 | ガス圧接 | 引張試験 | 1)手動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片5本 2)自動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片2本 | 試験片の作成は鉄筋径毎に行うこと | 土工 | 土 | 砂河川土の突固め試験 | 500m3以上の盛土を行う道路及び砂防工事で、当初及び土質の変化時の試験。（路床と同一材料の路体盛土は、路床の品質管理試験のみで良い）。河川土工の盛土は、当初及び土質の変化時の試験。 | 河川、砂防の盛土及び道路の路体盛土材 | 修正 CBR 試験 | 道路の路床工事の盛土材で、当初及び土質の変化時の試験。 | 土の突固め試験も必要 | 舗装工 | 舗 | 置路修正 CBR 試験 | 道路の置換材料について、当初及び土質の変化時の試験。 | | リ転圧コンク | 打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | |
| 工種 | 種別 | 試験項目 | 試験基準 | 適用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| セメントコンクリート | コク | 圧縮強度試験 | 1)対象構造物（次ページ注2）の場合 ① 鉄筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ2回ずつの試験を行い、うちそれぞれ1回を公的試験機関にて実施 ② 無筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を公的試験機関にて実施 2)対象構造物以外の場合（50m3未満は省略） 打設数量50m3ごとに σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を行い、うち σ 28強度の試験を公的試験機関にて実施 | 別紙フロー図を参照のこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 曲げ強度試験 | コンクリート舗装の場合で、打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鋼材 | ガス圧接 | 引張試験 | 1)手動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片5本 2)自動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片2本 | 試験片の作成は鉄筋径毎に行うこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土工 | 土 | 砂河川土の突固め試験 | 500m3以上の盛土を行う道路及び砂防工事で、当初及び土質の変化時の試験。（路床と同一材料の路体盛土は、路床の品質管理試験のみで良い）。河川土工の盛土は、当初及び土質の変化時の試験。 | 河川、砂防の盛土及び道路の路体盛土材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 修正 CBR 試験 | 道路の路床工事の盛土材で、当初及び土質の変化時の試験。 | 土の突固め試験も必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舗装工 | 舗 | 置路修正 CBR 試験 | 道路の置換材料について、当初及び土質の変化時の試験。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | リ転圧コンク | 打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工種 | 種別 | 試験項目 | 試験基準 | 適用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| セメントコンクリート | コク | 圧縮強度試験 | 1)対象構造物（次ページ注2）の場合 ① 鉄筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ2回ずつの試験を行い、うちそれぞれ1回を公的試験機関にて実施 ② 無筋構造物の場合 打設日1日につき σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を公的試験機関にて実施 2)対象構造物以外の場合（50m3未満は省略） 打設数量50m3ごとに σ 7強度及び σ 28強度それぞれ1回ずつの試験を行い、うち σ 28強度の試験を公的試験機関にて実施 | 別紙フロー図を参照のこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 曲げ強度試験 | コンクリート舗装の場合で、打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鋼材 | ガス圧接 | 引張試験 | 1)手動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片5本 2)自動ガス圧接の場合 工事着手前に作成した試験片2本 | 試験片の作成は鉄筋径毎に行うこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土工 | 土 | 砂河川土の突固め試験 | 500m3以上の盛土を行う道路及び砂防工事で、当初及び土質の変化時の試験。（路床と同一材料の路体盛土は、路床の品質管理試験のみで良い）。河川土工の盛土は、当初及び土質の変化時の試験。 | 河川、砂防の盛土及び道路の路体盛土材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 修正 CBR 試験 | 道路の路床工事の盛土材で、当初及び土質の変化時の試験。 | 土の突固め試験も必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舗装工 | 舗 | 置路修正 CBR 試験 | 道路の置換材料について、当初及び土質の変化時の試験。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | リ転圧コンク | 打設日1日につき2回（午前・午後）の σ 28強度の試験。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | | | | 福岡市 改定 R2.4 | | | | | | | |
|--------------|---------|------------------|--|---|-------|---------|------------------|--|------------------------------|---|----------------|
| 工種 | 種別 | 試験項目 | 試験基準 | 適用 | 工種 | 種別 | 試験項目 | 試験基準 | 適用 | | |
| 舗装工 | 舗装 | ①コアの密度測定試験 | 交通量区分がN7、N6、N5の場合について、採取した3個のコア（複数層施工の場合は、各層毎に採取）についての試験。 | 「別表 アスファルト舗装工事の品質管理試験」を参照のこと | 舗装工 | 舗装 | ①コアの密度測定試験 | 交通量区分がN7、N6、N5の場合について、採取した3個のコア（複数層施工の場合は、各層毎に採取）についての試験。 | 「別表 アスファルト舗装工事の品質管理試験」を参照のこと | | |
| | | ②混合物のアスファルト量抽出試験 | ただし、1工事（各層毎）の混合物使用量が、50t未満（または400m ² 未満）の場合は省略できる。 | | | | ②混合物のアスファルト量抽出試験 | ただし、1工事（各層毎）の混合物使用量が、50t未満（または400m ² 未満）の場合は省略できる。 | | | |
| | | ③混合物粒度分析試験 | 改質アスファルト使用の場合、1工事につき1回（複数層に使用の場合は各層毎）、施工前に作成した3個の供試体で実施する試験。ただし、アスファルト事前審査制度の認定を得た改質アスファルト混合物については、省略することができる。 | | | | ③混合物粒度分析試験 | 改質アスファルト使用の場合、1工事につき1回（複数層に使用の場合は各層毎）、施工前に作成した3個の供試体で実施する試験。ただし、アスファルト事前審査制度の認定を得た改質アスファルト混合物については、省略することができる。 | | | |
| 地盤改良工 | 固結 | 土の一軸圧縮試験 | 改良体500本未満については3本、500本以上については、250本増える毎に1本を追加した供試体の試験（σ28強度）。1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。 | 試験1回当たりの供試体は3個とする | 地盤改良工 | 固結 | 土の一軸圧縮試験 | 改良体500本未満については3本、500本以上については、250本増える毎に1本を追加した供試体の試験（σ28強度）。1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。 | 試験1回当たりの供試体は3個とする | | |
| | | | 浅層混合改良の場合、1,000m ³ 未満は1工事に1回、1,000m ³ 以上～5,000m ³ 未満は1工事に3回、5,000m ³ 以上は1,000m ³ 毎に1回とする。 | | | | | 浅層混合改良の場合、1,000m ³ 未満は1工事に1回、1,000m ³ 以上～5,000m ³ 未満は1工事に3回、5,000m ³ 以上は1,000m ³ 毎に1回とする。 (σ28強度) | | | |
| 法留面工 | 土の突固め試験 | 吹付工 | 当初及び土質の変化時の試験。 | | 法留面工 | 土の突固め試験 | 吹付工 | 当初及び土質の変化時の試験。 | | | |
| | | | 圧縮強度試験 | 吹付1日につき1回の試験。なお、テストピースは、現場に配置した型枠に施工と同時に吹付け、現場放置後切り取ったコアとし、σ28強度を対象とする。 | | | | 供試体はキャッピングすること | 圧縮強度試験 | 吹付1日につき1回の試験。なお、テストピースは、現場に配置した型枠に施工と同時に吹付け、現場放置後切り取ったコアとし、σ28強度を対象とする。 | 供試体はキャッピングすること |
| | | | 現場打撃工 | 吹付1日につき1回の試験。なお、テストピースは、現場に配置した型枠に施工と同時に吹付け、現場放置後切り取ったコアとし、σ7強度とσ28強度の双方を対象とする。 | | | | 供試体はキャッピングすること | 現場打撃工 | 吹付1日につき1回の試験。なお、テストピースは、現場に配置した型枠に施工と同時に吹付け、現場放置後切り取ったコアとし、σ7強度とσ28強度の双方を対象とする。 | 供試体はキャッピングすること |

注) 1. 公的試験機関とは、原則として（公財）福岡県建設技術情報センターとする。ただし、年度末等で同センターでの試験に時間を要し、工程への影響が大きいと監督職員が認めた場合は、他の公的試験機関（注3）とすることができる。さらに、他の公的試験機関での試験実施も困難な場合は、監督職員の立会いのもとでの民間試験機関を利用できるものとする。

2. 公的試験機関の圧縮強度試験を義務付ける対象構造物とは、擁壁（高さ1m以上）、函渠工、PC桁（工場製作は除き、間詰・横桁は含む）、鋼橋のRC床版、RC橋、橋台、橋脚、踏掛版、トンネル、砂防堰堤、排水機場、堰、水門（H=3m以上）、樋管、樋門（内空10m²以上）、洞門、共同溝、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、護岸、水路（内幅2m以上）、（コンクリート）舗装、その他これらに類するもの及び設計図書等に示す構造物とする。

3. （一財）九州環境管理協会、（一財）建材試験センター、（一財）日本品質保証機構、（公社）九州機械工業振興会及び他県の直轄試験場・技術センター等や大学を示す。

注) 1. 公的試験機関とは、原則として（公財）福岡県建設技術情報センターとする。ただし、年度末等で同センターでの試験に時間を要し、工程への影響が大きいと監督職員が認めた場合は、他の公的試験機関（注3）とすることができる。さらに、他の公的試験機関（**（公社）九州機械工業振興会、他県の直轄試験場・技術センター、大学等**）での試験実施も困難な場合は、監督職員の立会いのもとでの民間試験機関を利用できるものとする。

2. 公的試験機関の圧縮強度試験を義務付ける対象構造物とは、擁壁（高さ1m以上）※、函渠工、PC桁（工場製作は除き、間詰・横桁は含む）、鋼橋のRC床版、RC橋、橋台、橋脚、踏掛版、トンネル、砂防堰堤、排水機場、堰、水門（H=3m以上）、樋管、樋門（内空10m²以上）、洞門、共同溝、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、護岸※、水路（内幅2m以上）、（コンクリート）舗装、その他これらに類するもの及び設計図書等に示す構造物とする。**（※ブロック積、大型ブロック積、玉石積等を除く。）**

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|---|--|
| <p>8 写真管理基準</p> <p>8.4.1 撮影頻度</p> <p>工事写真は、撮影箇所一覧表に示す「撮影頻度」に基づき撮影するものとする。</p> <p>8.4.2 撮影方法</p> <p>写真撮影にあたっては、以下の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。</p> <ol style="list-style-type: none">① 工事名② 工種等③ 測点 (位置)④ 設計寸法⑤ 実測寸法⑥ 略図 <p>なお、小黒板の判読が困難となる場合は、写真帳説明欄等に必要事項を記入し、整理する。また、特殊な場合で、監督職員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。</p> <p>8.4.3 写真の省略</p> <p>工事写真は以下の場合に省略するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管・整備できる場合は、撮影を省略するものとする。(2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分（工事が完成したときに隠れる部分以外）については、出来形管理状況が分かる写真を工種ごとに1回撮影し、後は撮影を省略する出来るものとする。 <p>8.4.4 写真の編集等</p> <p>写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。</p> | <p>8 写真管理基準</p> <p>8.4.1 撮影頻度</p> <p>工事写真の撮影頻度は撮影箇所一覧表に示すものとする。</p> <p>8.4.2 撮影方法</p> <p>写真撮影にあたっては、以下の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。</p> <ol style="list-style-type: none">① 工事名② 工種等③ 測点 (位置)④ 設計寸法⑤ 実測寸法⑥ 略図 <p>なお、小黒板の判読が困難となる場合は、写真帳説明欄等に必要事項を記入し、整理する。特殊な場合は、監督職員が指示した項目や頻度で撮影する。</p> <p>8.4.3 写真の省略</p> <p>工事写真は以下の場合に省略するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管・整備できる場合は、撮影を省略するものとする。(2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分（工事が完成したときに隠れる部分以外）については、出来形管理状況が分かる写真を工種ごとに1回撮影し、他は撮影を省略する出来るものとする。(3) 段階確認において、監督職員等が臨場した箇所は出来形管理写真を省略できる。 <p>8.4.4 写真の編集等</p> <p>写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。ただし、『工事写真の黒板情報電子化（電子黒板）の運用における取扱い』に基づく小黒板情報の電子的記入は、これにあたらぬ。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|---|--|
| <p>10 安全管理</p> <p>10.1 目的</p> <p>建設工事の増大並びに大型化に伴い、労働災害は増加の傾向にあると共に、全産業と比較しても相変わらず高率を示している現状である。</p> <p>建設工事の安全管理は、昭和47年に労働基準法から独立、立法された労働安全衛生法及び同施行令、同規則に基づいて実施することになっており、これらの法令は危険防止基準の確率、事業場内における責任体制の明確化、事業者の自主的活動の促進措置等を定めている。</p> <p>安全管理の徹底を図るためには、上記労働安全衛生法等の法令に加え、火薬類取締法、建設工事公衆災害防止対策要綱（土木工事編）その他各種の法令に準拠して、直接作業に従事する労働者の労働災害を防止するのみならず、現場周辺の住民、住宅等、一般通行人等に対する公衆災害を含めた労働災害防止に努めなければならない。</p> <p>10.2 安全管理上の留意点</p> <p>10.2.2 安全衛生管理体制の確立</p> <p>労働安全衛生法に基づく安全衛生管理組織には、一般的な安全衛生管理組織と、数社の下請業者が一つの場所で混在して作業を行う場合の二通りがあり、その管理組織は異なってくるので留意する。ただ、管理組織を設けるための常時使用する労働者数が規定されているが、これに満たない場合も準用して組織を設けることが望ましい。</p> <p>10.2.6 現場巡回</p> <p>安全巡視員の設置については義務付けられているが、受注社内における現場巡回、又は隣接等受注者との連携における相互巡回、工事安全協議会等による巡回も計画する。</p> | <p>10 安全管理</p> <p>10.1 目的</p> <p>建設工事の増大並びに大型化に伴い、労働災害は増加の傾向にあると共に、全産業と比較しても相変わらず高率を示している現状である。</p> <p>建設工事の安全管理は、昭和47年に労働基準法から独立、立法された労働安全衛生法及び同施行令、同規則に基づいて実施することになっており、これらの法令は危険防止基準の確立、事業場内における責任体制の明確化、事業者の自主的活動の促進措置等を定めている。</p> <p>安全管理の徹底を図るためには、安全ポケットブック（福岡建設労務安全研究会：編集・発行）等を活用し、上記労働安全衛生法等の法令に加え、火薬類取締法、建設工事公衆災害防止対策要綱（土木工事編）その他各種の法令に準拠して、直接作業に従事する労働者の労働災害を防止するのみならず、現場周辺の住民、住宅等、一般通行人等に対する公衆災害の防止に努めなければならない。</p> <p>10.2 安全管理上の留意点</p> <p>10.2.2 安全衛生管理体制の確立</p> <p>労働安全衛生法に基づく安全衛生管理組織には、一般的な安全衛生管理組織と、数社の下請業者が一つの場所で混在して作業を行う場合の二通りがあり、それぞれの形態でその管理組織は異なるので留意する。ただ、管理組織を設けるための常時使用する労働者数が規定されているが、これに満たない場合も準用して組織を設けることが望ましい。</p> <p>10.2.6 現場巡回</p> <p>安全巡視員の設置については義務付けられているが、受注者の社内における現場巡回、又は隣接等受注者との連携における相互巡回、工事安全協議会等による巡回も計画する。</p> <p>10.2.9 その他</p> <p>「安全教育訓練実施資料」は実施状況の提示とし、具体的な実施内容の提出は不要とする。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | |
|---|--|-----|-----------|--|-------------|---|---|
| <p>1 1 再生資源</p> <p>11.1 再生資源利用計画、再生資源利用促進計画</p> <p>再生資源利用計画書や再生資源利用促進計画書の作成は、資源の有効な利用の促進に関する法律に基づき、以下の工事が対象となる。</p> <table border="1" data-bbox="150 450 756 696"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>要 件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再生資源利用計画書</td> <td>次のような建設資材を搬入する工事 土砂：1,000m³以上 砕石：500 t以上 加熱アスファルト混合物：200 t以上</td> </tr> <tr> <td>再生資源利用促進計画書</td> <td>次のような指定副産物を搬出する工事 建設発生土：1,000m³以上 コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊又は建設発生木材であって、これらの合計が200t以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-18 建設副産物 5.再生資源利用計画、6.再生資源利用促進計画、8.処理結果には以下のように規定されている。</p> | 種 類 | 要 件 | 再生資源利用計画書 | 次のような建設資材を搬入する工事 土砂：1,000m ³ 以上 砕石：500 t以上 加熱アスファルト混合物：200 t以上 | 再生資源利用促進計画書 | 次のような指定副産物を搬出する工事 建設発生土：1,000m ³ 以上 コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊又は建設発生木材であって、これらの合計が200t以上 | <p>1 1 再生資源</p> <p>11.1 再生資源利用計画書(実施書)、再生資源利用促進計画書(実施書)</p> <p>再生資源利用計画書(実施書)や再生資源利用促進計画書(実施書)の作成は、全ての工事が対象となる。</p> <p>作成にあたっては、原則、建設副産物情報センター(http://www.recycle.jacic.or.jp/)のWEBオンラインシステム「建設副産物情報交換システム」により、元請業者がデータ入力・登録後、写しを工事着手時(施工計画書に含め)に監督職員に提出、工事完了後には実施書を発注者に提出する。監督員は提出された実施書を一件書類へ添付する。建設副産物情報交換システムを導入していない場合は、「再生資源利用計画書(実施書)」や「再生資源利用促進計画書(実施書)」の提出でも可とする。</p> <p>なお、土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-18 建設副産物 5.再生資源利用計画、6.再生資源利用促進計画、7.処理場所及び処理業者の変更、8.実施書の提出 9.建設副産物情報交換システムには以下のように規定されている。</p> |
| 種 類 | 要 件 | | | | | | |
| 再生資源利用計画書 | 次のような建設資材を搬入する工事 土砂：1,000m ³ 以上 砕石：500 t以上 加熱アスファルト混合物：200 t以上 | | | | | | |
| 再生資源利用促進計画書 | 次のような指定副産物を搬出する工事 建設発生土：1,000m ³ 以上 コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊又は建設発生木材であって、これらの合計が200t以上 | | | | | | |
| <p>4.再生資源利用計画</p> <p>受注者は、土砂、砕石または加熱アスファルト混合物を工事現場に搬入する場合には、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。</p> <p>5.再生資源利用促進計画</p> <p>受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。</p> <p>7.処理結果</p> <p>受注者は、建設廃棄物の処理結果について、「産業廃棄物処理確認票」「再生材使用確認票」及び「再資源化等完了報告書」を監督職員に提出し報告しなければならない。</p> <p>また、「建設廃棄物処理明細書」、「再資源化処理施設搬入明細書」及び「処理数量が確認できる処分場の受入検印のある搬入伝票」等について、監督職員または検査員から請求があった場合は速やかに提示しなければならない。</p> | <p>4.再生資源利用計画</p> <p>受注者は、土砂、砕石または加熱アスファルト混合物を工事現場に搬入する場合には、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。</p> <p>5.再生資源利用促進計画</p> <p>受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。</p> <p>7.処理場所及び処理業者の変更</p> <p>受注者は処理場所及び処理業者の変更を生じる場合は、事前に監督員に届出て変更の承諾を受けなければならない。</p> <p>6.実施書の提出</p> <p>受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」を発注者に提出しなければならない。</p> | | | | | | |
| | <p>7.建設副産物情報交換システム</p> <p>受注者は、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物を搬入または搬出する場合には、施工計画作成時、工事完了時に必要な情報を建設副産物情報交換システム「CREDA S情報登録」に入力するものとする。なお、出力した調査票は「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」の提出に代わるものとし、これによりがたい場合には、監督</p> | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--------------|---|
| | <p data-bbox="810 271 1481 309">職員と協議しなければならない。</p> <p data-bbox="810 367 1023 394">11.2 再利用の促進</p> <p data-bbox="810 416 1481 488">福岡市が発注する工事において発生する建設廃材および使用する再生材については、積極的に再利用を推進するものとする。</p> <p data-bbox="810 510 1043 537">(1) 建設廃材の適正処理</p> <p data-bbox="810 560 1481 631">建設廃材について再生可能なものは、全て中間処理施設へ搬入することを原則とする。</p> <p data-bbox="810 654 1353 680">なお、搬入にあたっては適正に資材の判別を行い搬入すること。</p> <p data-bbox="810 703 986 730">(2) 再生材の使用</p> <p data-bbox="810 752 1481 918">再生材の使用を原則とし、その使用にあたっては、再生路盤材及び再生裏込め・基礎材については認定再利用施設の製品を、再生加熱アスファルト混合物についてはアスファルト混合物事前審査委員会の事前審査で認定された混合物を使用することを原則とする。</p> <p data-bbox="810 940 1481 1012">ただし、夜間作業や使用量が少ない時には、あらかじめ再生材製造業者と協議を行うこととする。</p> <p data-bbox="810 1034 1139 1061">(3) 再生材の使用に関する注意事項</p> <p data-bbox="810 1084 1481 1205">1) 再生加熱アスファルト混合物は、工事現場から40Km及び1.5時間の範囲内で利用することとし、工事目的物に要求される合材の温度等の品質管理に注意すること。</p> <p data-bbox="810 1227 1481 1348">2) 再生加熱アスファルト混合物の使用にあたっては、資源再利用の観点から、できるだけ再生骨材の混入が多いものとするが、混入率30%以上のものを使用すること。</p> <p data-bbox="810 1370 1481 1442">3) 路盤材及び裏込め・基礎材の使用にあたり、再生材と新材の混合再生材を使用する場合は、再生材の混入率50%以上のものとする。</p> <p data-bbox="810 1464 1481 1585">4) 契約後、監督員は再生材使用について、再生材の安定供給を図ることから、再生材製造業者と現場供給に関する協議を行うよう、受注者の指導を行うこと。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|-----------|---------------|------------|---------------------------------------|---------------|------------------------------------|-----------|--------------------------------------|--|--------|
| | <p style="text-align: right;">別紙-1</p> <p style="text-align: center;">再生骨材における裏込め材・基礎材の規格</p> <p>コンクリートブロック積み・擁壁等の裏込め材及び各種構造物（小型構造物）の基礎材として使用する再生骨材の規格は下記を参考とする。</p> <p>再生裏込め材</p> <table border="1" data-bbox="932 510 1342 745"><tr><td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">粒 度</td><td style="text-align: center;">最 大 粒 径</td><td style="text-align: center;">1 0 0 mm以下</td></tr><tr><td style="text-align: center;">4, 7 5 0 μ m (No.4)ふるい 通過質量百分率</td><td style="text-align: center;">2 5 ~ 1 0 0 %</td></tr><tr><td style="text-align: center;">7 5 μ m (No.200)ふるい 通過質量百分率</td><td style="text-align: center;">0 ~ 2 5 %</td></tr><tr><td colspan="2">塑 性 指 数 (4 2 5 μ mふるい通過分について)</td><td style="text-align: center;">1 0 以下</td></tr></table> <p style="text-align: right;">(道路土工-盛土工指針)</p> <p>最大粒径は目的に応じて適宜選択する。</p> <p>再生基礎材</p> <p>再生路盤材に用いる再生クラッシャーランと同等の品質を有するものとする。</p> <h3>11.3 再利用施設の認定</h3> <p>再生材として使用する再生路盤材及び再生裏込め・基礎材等の再生材料を製造する混合所（以下「再利用施設」という。）は、再生材の安定供給、品質管理等を図るために、再利用施設の認定を行うもの。</p> <p>なお、再利用施設の認定状況については別に定める「再利用施設の審査要綱認定施設等一覧表」によるものとする。</p> <p>(1) 再利用施設としての要件</p> <ol style="list-style-type: none">①「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」による、中間処理業の許可を受けた施設であること。②「舗装再生便覧」にいう、混合所に適合する施設であること。③市の公共工事に伴う建設廃材等の、受け入れ体制が整備された施設であること。④資材の供給において、制約のない施設であること。 <p>(2) 混合再利用施設としての要件</p> <ol style="list-style-type: none">①「砕石法」による、採取計画の認可を受けた施設であること。②混合材は再利用施設で製造されたものとする。③資材の供給において、制約のない施設であること。 | 粒 度 | 最 大 粒 径 | 1 0 0 mm以下 | 4, 7 5 0 μ m (No.4)ふるい 通過質量百分率 | 2 5 ~ 1 0 0 % | 7 5 μ m (No.200)ふるい 通過質量百分率 | 0 ~ 2 5 % | 塑 性 指 数 (4 2 5 μ mふるい通過分について) | | 1 0 以下 |
| 粒 度 | 最 大 粒 径 | | 1 0 0 mm以下 | | | | | | | | |
| | 4, 7 5 0 μ m (No.4)ふるい 通過質量百分率 | | 2 5 ~ 1 0 0 % | | | | | | | | |
| | 7 5 μ m (No.200)ふるい 通過質量百分率 | 0 ~ 2 5 % | | | | | | | | | |
| 塑 性 指 数 (4 2 5 μ mふるい通過分について) | | 1 0 以下 | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|---|---|
| <p>11.2 建設発生土</p> <p>建設発生土については、土木工事共通仕様書第1編第2章 土工 1-2-3-1 一般事項 4. 適用規定から 11. 建設発生土の処理結果には以下のように規定されている。</p> <p>4. 適用規定</p> <p>受注者は、建設発生土については、第1編 1-1-1-18 建設副産物の規定により適切に処理しなければならない。</p> <p>5. 発生土受入れ地等</p> <p>受注者は、建設発生土受入れ地及び建設廃棄物処理地の位置、及び建設発生土の内容等については、設計図書及び監督職員の指示に従わなければならない。</p> <p>なお、受注者は、施工上やむを得ず指定された場所以外に建設発生土または、建設廃棄物を処分する場合には、事前に設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。</p> <p>6. 施工計画書</p> <p>受注者は、建設発生土処理にあたり第1編 1-1-1-4 施工計画書第1項の施工計画書の記載内容に加えて設計図書に基づき以下の事項を施工計画書に記載しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 処理方法（場所・形状等）(2) 排水計画(3) 場内維持等 <p>7. 建設発生土受入れ地の実測</p> <p>受注者は、建設発生土の受入れ地への搬入に先立ち、指定された建設発生土の受入れ地について地形を実測し、資料を監督職員に提出しなければならない。ただし、受注者は、実測困難な場合等には、これに代わる資料により、監督職員の承諾を得なければならない。</p> <p>8. 建設発生土受入れ地の条件</p> <p>建設発生土受入れ地については、受注者は、建設発生土受入れ地ごとの特定条件に応じて施工しなければならない。</p> <p>9. 建設発生土受入承諾書</p> <p>受注者は、建設発生土の処理にあたり、事前に「建設発生土受入承諾書」を監督職員に提出しなければならない。</p> <p>10. 建設発生土処分場所の変更</p> <p>受注者は、処分場所及び処分業者の変更を生じる場合は、事前に監督職員に届け出て変更の承諾を得なければならない。</p> <p>11. 建設発生土の処理結果</p> <p>受注者は、建設発生土の処理結果について、「建設発生土処理明細書」「建設発生土確認票」を監督職員に提出し報告しなければならない。</p> <p>また、「その他残土処理明細書」、「処理数量が確認できる処分場の受入検印</p> | <p>11.4 建設発生土</p> <p>建設発生土については、土木工事共通仕様書第1編 1-1-1-18 建設副産物</p> <p>9. 建設発生土受入承諾書において以下のように規定されている。</p> <p>11. 建設発生土受入承諾書</p> <p>受注者は、建設発生土の処理にあたり、事前に「建設発生土受入承諾書」を監督職員に提出しなければならない。</p> <p>1) 処理確認</p> <p>認定施設一覧表に記載の指定処分場および建設発生土リサイクルプラント以外への搬出は、工事中に最低1回、施工計画書に記載された処分場の搬入・処分状況について監督職員の立会が必要。ただし、やむを得ない場合は現場代理人等の立会に代えることができる。</p> <p>2) 交通安全対策</p> <p>処分場等に搬入する工事車両においては、交通安全が図られるよう、法定速度を厳守する等、受注者への指導徹底を図ること。</p> <p>また、本市の指定処分場に土砂搬入を行う車両については、発注局及び処分場名を記入し、外から確認できる場所（フロントガラス等）に必ず掲示すること。</p> <p>(参考)</p> <div data-bbox="817 1193 1439 1480" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"><p>↑ 車枠で囲む</p><p>福岡市 ○ ○ ○ 局</p><p>△ △ △ 処分場</p><p>搬入 車 輻</p></div> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--|---|
| <p>のある搬入伝票」等について、監督職員または検査員から請求があった場合は速やかに提示しなければならない。</p> <p>11.3 産業廃棄物管理票 (マニフェスト)</p> <p>産業廃棄物の処理責任は、廃掃法上排出事業者が負うこととされているが、排出事業者がその運搬又は処理を委託する場合、廃棄物の種類、運搬先ごとに産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を発行することとされている。</p> <p>なお、土木工事共通仕様書第 1 編 1-1-1-18 建設副産物 2. マニフェストには以下のように規定されている。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"><p>2. マニフェスト</p><p>受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、産業廃棄物管理票 (紙マニフェスト) または電子マニフェストにより、適正に処理されていることを確かめるとともに監督職員に提示しなければならない。</p></div> | <p>11.5 産業廃棄物処理に関する運用基準</p> <p>[1. 目的・適用]</p> <p>昭和60年4月1日制定「建設工事から発生する産業廃棄物の処理料の設計計上要領」(以下「設計計上要領」) に基づく運用基準を定め、産業廃棄物の適正な処理を行うことを目的とする。</p> <p>[2. 監督業務]</p> <p>1. 施工計画書の確認</p> <p>監督員は、受注者が工事着手前に提出する施工計画書の内容確認を以下により行う。</p> <p>(1) 処分先の確認</p> <p>廃棄物の処理処分施設については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいた適正な処理・処分施設であること。</p> <ul style="list-style-type: none">・コンクリート殻及び路盤材使用の鉋さい <p>福岡市認定再利用施設であること。</p> <ul style="list-style-type: none">・アスファルト殻 <p>中間処理施設のうち、アスファルト混合物事前審査委員会の事前審査で認定された製品を製造する混合所が併設された施設であること。</p> <ul style="list-style-type: none">・建設汚泥 <p>中間処理後に資材として有価で販売することを目的とした中間処理施設等については、事前に産業廃棄物処分業許可証の内容等により、汚泥発生量に見合うリサイクルが可能な施設であること。</p> <p>なお、最終処分についても許可書の内容等により、汚泥の発生量に見合う処理が可能な施設であること。</p> <p>(2) 産業廃棄物処理委託契約書の確認</p> <p>産業廃棄物の不適正処分を防止するため、「産業廃棄物処理委託契約書」等の書面により適正な処理がなされていること。</p> <ul style="list-style-type: none">・産業廃棄物の処理を収集運搬業者及び処分業者に委託する場合は、それぞれ取り交わしている書面による委託契約書が「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で規定されている内容であること。・委託契約書に受託者 (処分業者・収集運搬業者等) の許可証を添付していること。 |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|----------|---|----------|-----|-----------|---|---|-------------------------------------|-----------|---|---|---------|-------------|---|---|---------|-----------|---|---|---------|--------|---|---|---|------------|---|---|--------------------------------------|------------------|---|---|---|-------------|---|---|---------|-----------|---|---|---------|
| | <p>2. 着手前に受注者が作成する必要な書類</p> <p>・産業廃棄物処理計画書</p> <p>「福岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」に基づき産業廃棄物の発生見込量が500m³以上の工事は「産業廃棄物処理計画書」を工事着手の15日前までに「環境局産業廃棄物指導課」に提出すること。</p> <p>3. 工事施工中の産業廃棄物処理状況の確認</p> <p>監督員は、施工計画書に基づき産業廃棄物の処理が適切に行われるよう確認すること。</p> <p>4. 産業廃棄物数量の確認</p> <p>(1) 処理数量は、マニフェストに基づき受注者が作成した再生資源利用促進実施書で確認する。</p> <p>マニフェストA・B・D・E票は排出事業者(受注者)の手持ち資料として工事完了検査の際、提示できるようにしておくこと。</p> <p>また、マニフェストは排出事業者(受注者)が5年間保存することとなっているので、原本は必ず排出事業者が保管すること。</p> <p>5. 産業廃棄物としての判断が困難な場合の取扱い</p> <p>産業廃棄物として判断が困難な場合は、環境局産業廃棄物指導課の指示を受けるものとする。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">参 考</div> <p>6. 必要書類の要件</p> <table border="1" data-bbox="817 1330 1445 1675"> <thead> <tr> <th>書 類</th> <th>発注者</th> <th>産業廃棄物指導課</th> <th>要 件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特 記 仕 様 書</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>・建設副産物の処理や現場再利用及び再生材についての特別な指示を示す場合</td> </tr> <tr> <td>施 工 計 画 書</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・すべての工事</td> </tr> <tr> <td>再生資源利用促進計画書</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・すべての工事</td> </tr> <tr> <td>再生資源利用計画書</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・すべての工事</td> </tr> <tr> <td>マニフェスト</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・建設廃棄物処理計画書に記載された建設廃棄物実際に処理したことの証明となる必要書類</td> </tr> <tr> <td>産業廃棄物処理計画書</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>☆・産業廃棄物の発生見込量が500m³以上の工</td> </tr> <tr> <td>産業廃棄物処理委託契約書(写し)</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・現場から発生する産業廃棄物の処理を収集者及び処理処分業者に委託する場合に必要</td> </tr> <tr> <td>再生資源利用促進実施書</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・すべての工事</td> </tr> <tr> <td>再生資源利用実施書</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>・すべての工事</td> </tr> </tbody> </table> <p>○・・・作成</p> <p>△・・・内容確認</p> <p>☆・・・環境局産業廃棄物指導課へ</p> <p>7. 建設工事から発生する産業廃棄物処理の施工フロー</p> | 書 類 | 発注者 | 産業廃棄物指導課 | 要 件 | 特 記 仕 様 書 | ○ | △ | ・建設副産物の処理や現場再利用及び再生材についての特別な指示を示す場合 | 施 工 計 画 書 | △ | ○ | ・すべての工事 | 再生資源利用促進計画書 | △ | ○ | ・すべての工事 | 再生資源利用計画書 | △ | ○ | ・すべての工事 | マニフェスト | △ | ○ | ・建設廃棄物処理計画書に記載された建設廃棄物実際に処理したことの証明となる必要書類 | 産業廃棄物処理計画書 | △ | ○ | ☆・産業廃棄物の発生見込量が500m ³ 以上の工 | 産業廃棄物処理委託契約書(写し) | △ | ○ | ・現場から発生する産業廃棄物の処理を収集者及び処理処分業者に委託する場合に必要 | 再生資源利用促進実施書 | △ | ○ | ・すべての工事 | 再生資源利用実施書 | △ | ○ | ・すべての工事 |
| 書 類 | 発注者 | 産業廃棄物指導課 | 要 件 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特 記 仕 様 書 | ○ | △ | ・建設副産物の処理や現場再利用及び再生材についての特別な指示を示す場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施 工 計 画 書 | △ | ○ | ・すべての工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生資源利用促進計画書 | △ | ○ | ・すべての工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生資源利用計画書 | △ | ○ | ・すべての工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マニフェスト | △ | ○ | ・建設廃棄物処理計画書に記載された建設廃棄物実際に処理したことの証明となる必要書類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 産業廃棄物処理計画書 | △ | ○ | ☆・産業廃棄物の発生見込量が500m ³ 以上の工 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 産業廃棄物処理委託契約書(写し) | △ | ○ | ・現場から発生する産業廃棄物の処理を収集者及び処理処分業者に委託する場合に必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生資源利用促進実施書 | △ | ○ | ・すべての工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生資源利用実施書 | △ | ○ | ・すべての工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| | |
|--------------|------------|
| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--------------|------------|

11.6 建設リサイクル法通知の事務手続き

1) 分別解体計画等の説明 (法第12条)

工事監督課は入札後、契約締結までの間に受注者（元請け業者）から様式ー2「分別解体等の計画等」の提出を求め、計画内容について説明を受ける。

発 札 業 者 → 工 事 監 督 課

2) 事前通知 (法第11条)

対象建設工事の工事監督課は、工事の着手前に、まず環境局循環型社会推進部産業廃棄物指導課（以下「産業廃棄物指導課」という）の確認を受け、住宅都市局建築指導部建築物安全推進課（以下「建築物安全推進課」という）に通知する。

[通知の方法]

- 工事監督課が様式ー3「通知書」を一部作成する。
- 産業廃棄物指導課に「通知書」と「工事請負契約書（写）」を提示し、記載事項について確認してもらい、通知書に「確認印」を押印してもらう。
- 確認印が押印された「通知書」を建築物安全推進課に提出する。

また、「通知書」の提出部数は1部であるため、工事監督課はあらかじめ複写を作成し保管する。

④発注形態と通知方法との関係

| | (ケース) | (通知の方法) |
|---|------------------------------|---------|
| 1 | 一つの現場で元請け業者が複数ある場合 | 契約単位 |
| 2 | 元請け業者が同じで現場が異なる場合 | 現場単位 |
| 3 | 元請け業者と現場が同じで契約が異なる場合（例：随意契約） | 契約単位 |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|--|-------------|---|-----------------|-------------------|-----------|-----------------------------|------------------------------|--|----|--|---------------|--|
| | <div data-bbox="821 280 1444 548" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> </div> <p data-bbox="821 649 949 683">6. 各種様式等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="837 694 1340 728">1) 建設リサイクル法関係通知書様式-1 <li data-bbox="837 739 1340 772">2) 分別解体等の計画等様式-2 <li data-bbox="837 784 1340 817">3) 通知書様式-3 <li data-bbox="837 828 1340 862">4) 建設工事請負契約書 (別紙)参考-1 <li data-bbox="837 873 1340 907">5) 建設リサイクル法の概要参考-2 <p data-bbox="1356 940 1420 974" style="text-align: right;">様式-1</p> <p data-bbox="997 996 1252 1030" style="text-align: center;">建設リサイクル法関係通知書</p> <p data-bbox="1117 1052 1428 1086" style="text-align: right;">起工番号 _____</p> <p data-bbox="1117 1097 1428 1131" style="text-align: right;">発注課 局 部 課 _____</p> <p data-bbox="837 1142 1428 1176">契約件名 _____</p> <p data-bbox="837 1209 1284 1265">1 建設リサイクル法対象の別 (アカイのいずれかに○、イの場合はaからcのいずれかにも○)</p> <p data-bbox="837 1276 1212 1310">ア 本工事は、建設リサイクル法の対象とはなりません。</p> <p data-bbox="837 1321 1268 1355">イ 本工事は、下記の場合に建設リサイクル法の対象となります。</p> <table border="0" data-bbox="861 1366 1428 1489"> <tr> <td data-bbox="861 1366 1085 1400">a 契約金額に関わらず</td> <td data-bbox="1093 1366 1428 1489" rowspan="3" style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 5px;"> aからcのいずれかに○。 政令第2条第1号(80㎡以上の建築物の解体工事)と 第2号(500㎡以上の建築物の新築増築)の場合は aに○。第3号(第2号以外の新築工事等)の場合は bに○。第4号(建築物以外の工事)の場合はcに○ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="861 1411 1085 1444">b 契約金額が1億円以上の場合</td> </tr> <tr> <td data-bbox="861 1456 1085 1489">c 契約金額が500万円以上の場合</td> </tr> </table> <p data-bbox="837 1523 1244 1556">2 建設リサイクル法に関する工事の内容は下記のとおりです。</p> <p data-bbox="837 1568 1085 1624">ア 解体工事の有無(いずれかに○) 有 無</p> <p data-bbox="837 1635 1420 1668">イ 本工事で発生する特定建設資材廃棄物(新築工事等の場合は使用する特定建設資材)</p> <table border="1" data-bbox="869 1668 1396 1803"> <thead> <tr> <th data-bbox="869 1668 1173 1713">特定建設資材の種類</th> <th data-bbox="1173 1668 1396 1713">発生(使用)の有無 (発生(使用)するものに○)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="869 1713 1173 1758">コンクリート(コンクリート及び鉄から成る建設資材を含む)</td> <td data-bbox="1173 1713 1396 1758"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="869 1758 1173 1792">木材</td> <td data-bbox="1173 1758 1396 1792"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="869 1792 1173 1803">アスファルト・コンクリート</td> <td data-bbox="1173 1792 1396 1803"></td> </tr> </tbody> </table> | a 契約金額に関わらず | aからcのいずれかに○。 政令第2条第1号(80㎡以上の建築物の解体工事)と 第2号(500㎡以上の建築物の新築増築)の場合は aに○。第3号(第2号以外の新築工事等)の場合は bに○。第4号(建築物以外の工事)の場合はcに○ | b 契約金額が1億円以上の場合 | c 契約金額が500万円以上の場合 | 特定建設資材の種類 | 発生(使用)の有無 (発生(使用)するものに○) | コンクリート(コンクリート及び鉄から成る建設資材を含む) | | 木材 | | アスファルト・コンクリート | |
| a 契約金額に関わらず | aからcのいずれかに○。 政令第2条第1号(80㎡以上の建築物の解体工事)と 第2号(500㎡以上の建築物の新築増築)の場合は aに○。第3号(第2号以外の新築工事等)の場合は bに○。第4号(建築物以外の工事)の場合はcに○ | | | | | | | | | | | | |
| b 契約金額が1億円以上の場合 | | | | | | | | | | | | | |
| c 契約金額が500万円以上の場合 | | | | | | | | | | | | | |
| 特定建設資材の種類 | 発生(使用)の有無 (発生(使用)するものに○) | | | | | | | | | | | | |
| コンクリート(コンクリート及び鉄から成る建設資材を含む) | | | | | | | | | | | | | |
| 木材 | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト・コンクリート | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|--|-------|--|--|---------------------------------|--|--|--------|----------------------|--|--------------|--|--|-------------------------------|------|--|-----------------|------|--|--|-------------------------------|---------------------------|--|--|--|---|---|----|------|----------|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-------|---|--|--|--------|--|--|--|------|--|--|--|----------------------|--|--|--|---------------------------------|----|--|--|------------------------|----|-------|-----------------------|----------------------------------|----|--|---|----|--|--|---------------------------------|----|--|--|-----------------------------------|--|--|--|
| <p>別表3</p> | <p style="text-align: right;">様式-2 (A.4)</p> <p style="text-align: center;">建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等(土木工事等)</p> <h3 style="text-align: center;">分別解体等の計画等</h3> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%;"> 工作物の構造 (解体工事のみ) </td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td> 工事の種類 </td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/> 新築工事 <input type="checkbox"/> 維持・修繕工事 <input type="checkbox"/> 解体工事 <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 下水道 <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td> 使用する特定建設資材の種類 (新築・維持・修繕工事のみ) </td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> コンクリート及び鉄から成る建設資材 <input type="checkbox"/> アスファルト・コンクリート <input type="checkbox"/> 木材 </td> </tr> <tr> <td> 工作物の状況 </td> <td colspan="2"> 築年数 () 年 その他 () </td> </tr> <tr> <td> 工作物に関する調査の結果 </td> <td colspan="2"> 周辺にある施設 <input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 商業施設 <input type="checkbox"/> 学校 周辺状況 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> その他 () 敷地境界との最短距離 約 () m その他 () </td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> 工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容 </td> <td> 作業場所 </td> <td> 作業場所 <input type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> 不十分 その他 () </td> <td> 工事着手前に実施する措置の内容 </td> </tr> <tr> <td> 搬出経路 </td> <td> 障害物 <input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無 前面道路の幅員 約 () m 道幅 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 その他 () </td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> 工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容 </td> <td> 特定建設資材への付着物(解体・維持・修繕工事のみ) </td> <td> <input type="checkbox"/> 飛散性石綿(状付け石綿、石綿含有状付けロックウール等) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿(石綿含有ビニール床タイル等) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他 () </td> <td> <input type="checkbox"/> 飛散性石綿に関する障害予防措置(大防法、労安療法、石綿予防規制) <input type="checkbox"/> 飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td> その他(特定建設資材に付着していない解体・維持・修繕工事に発生する有害物質) </td> <td> <input type="checkbox"/> 飛散性石綿(砕骨等に状付けられた石綿、石綿を含有する断熱材、保溫材、耐火被覆材等) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿(スレートボード等) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他 () </td> <td> <input type="checkbox"/> 飛散性石綿に関する障害予防措置(大防法、労安療法、石綿予防規制) <input type="checkbox"/> 飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿の適正処理の実施(工事前措置が必要な場合) <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td> 工程 </td> <td> 作業内容 </td> <td> 分別解体等の方法 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>①収設</td> <td>収設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</td> <td><input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②土工</td> <td>土工 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</td> <td><input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③基礎</td> <td>基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</td> <td><input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④本体構造</td> <td>本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</td> <td><input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤本体付属品</td> <td>本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</td> <td><input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥その他</td> <td>その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</td> <td><input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工事の工程の順序 (解体工事のみ) </td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/> 上の工程における⑤→④→③の順序 <input type="checkbox"/> その他 () その他の場合の理由 () </td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工作物に用いられた建設資材の量の見込み (解体工事のみ) </td> <td colspan="2"> トン </td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> 建築物発生廃棄物の発生が見込まれる部分(注) </td> <td> 種類 </td> <td> 量の見込み </td> <td> 使用する部分又は発生が見込まれる部分(注) </td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> コンクリート塊 </td> <td> トン </td> <td> <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ </td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> アスファルト・コンクリート塊 </td> <td> トン </td> <td> <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ </td> <td></td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 建設発生木材 </td> <td> トン </td> <td> <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ </td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4"> (注) ①収設 ②土工 ③基礎 ④本体構造 ⑤本体付属品 ⑥その他 </td> </tr> </table> <p>備考</p> <p>□欄には、該当箇所に「レ」を付すこと。</p> | 工作物の構造 (解体工事のみ) | <input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> その他 () | | 工事の種類 | <input type="checkbox"/> 新築工事 <input type="checkbox"/> 維持・修繕工事 <input type="checkbox"/> 解体工事 <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 下水道 <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 () | | 使用する特定建設資材の種類 (新築・維持・修繕工事のみ) | <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> コンクリート及び鉄から成る建設資材 <input type="checkbox"/> アスファルト・コンクリート <input type="checkbox"/> 木材 | | 工作物の状況 | 築年数 () 年 その他 () | | 工作物に関する調査の結果 | 周辺にある施設 <input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 商業施設 <input type="checkbox"/> 学校 周辺状況 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> その他 () 敷地境界との最短距離 約 () m その他 () | | 工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容 | 作業場所 | 作業場所 <input type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> 不十分 その他 () | 工事着手前に実施する措置の内容 | 搬出経路 | 障害物 <input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無 前面道路の幅員 約 () m 道幅 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 その他 () | | 工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容 | 特定建設資材への付着物(解体・維持・修繕工事のみ) | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿(状付け石綿、石綿含有状付けロックウール等) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿(石綿含有ビニール床タイル等) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他 () | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿に関する障害予防措置(大防法、労安療法、石綿予防規制) <input type="checkbox"/> 飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> その他 () | その他(特定建設資材に付着していない解体・維持・修繕工事に発生する有害物質) | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿(砕骨等に状付けられた石綿、石綿を含有する断熱材、保溫材、耐火被覆材等) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿(スレートボード等) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他 () | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿に関する障害予防措置(大防法、労安療法、石綿予防規制) <input type="checkbox"/> 飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿の適正処理の実施(工事前措置が必要な場合) <input type="checkbox"/> その他 () | 工程 | 作業内容 | 分別解体等の方法 | | ①収設 | 収設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | ②土工 | 土工 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | ③基礎 | 基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | ④本体構造 | 本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | ⑤本体付属品 | 本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | ⑥その他 | その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | 工事の工程の順序 (解体工事のみ) | <input type="checkbox"/> 上の工程における⑤→④→③の順序 <input type="checkbox"/> その他 () その他の場合の理由 () | | | 工作物に用いられた建設資材の量の見込み (解体工事のみ) | トン | | | 建築物発生廃棄物の発生が見込まれる部分(注) | 種類 | 量の見込み | 使用する部分又は発生が見込まれる部分(注) | <input type="checkbox"/> コンクリート塊 | トン | <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ | <input type="checkbox"/> アスファルト・コンクリート塊 | トン | <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ | | <input type="checkbox"/> 建設発生木材 | トン | <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ | | (注) ①収設 ②土工 ③基礎 ④本体構造 ⑤本体付属品 ⑥その他 | | | |
| 工作物の構造 (解体工事のみ) | <input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事の種類 | <input type="checkbox"/> 新築工事 <input type="checkbox"/> 維持・修繕工事 <input type="checkbox"/> 解体工事 <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 下水道 <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 使用する特定建設資材の種類 (新築・維持・修繕工事のみ) | <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> コンクリート及び鉄から成る建設資材 <input type="checkbox"/> アスファルト・コンクリート <input type="checkbox"/> 木材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工作物の状況 | 築年数 () 年 その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工作物に関する調査の結果 | 周辺にある施設 <input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 商業施設 <input type="checkbox"/> 学校 周辺状況 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> その他 () 敷地境界との最短距離 約 () m その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容 | 作業場所 | 作業場所 <input type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> 不十分 その他 () | 工事着手前に実施する措置の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 搬出経路 | 障害物 <input type="checkbox"/> 有 () <input type="checkbox"/> 無 前面道路の幅員 約 () m 道幅 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容 | 特定建設資材への付着物(解体・維持・修繕工事のみ) | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿(状付け石綿、石綿含有状付けロックウール等) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿(石綿含有ビニール床タイル等) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他 () | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿に関する障害予防措置(大防法、労安療法、石綿予防規制) <input type="checkbox"/> 飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他(特定建設資材に付着していない解体・維持・修繕工事に発生する有害物質) | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿(砕骨等に状付けられた石綿、石綿を含有する断熱材、保溫材、耐火被覆材等) <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿(スレートボード等) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他 () | <input type="checkbox"/> 飛散性石綿に関する障害予防措置(大防法、労安療法、石綿予防規制) <input type="checkbox"/> 飛散性石綿の適正処理の実施 <input type="checkbox"/> 非飛散性石綿の適正処理の実施(工事前措置が必要な場合) <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工程 | 作業内容 | 分別解体等の方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①収設 | 収設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②土工 | 土工 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③基礎 | 基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④本体構造 | 本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤本体付属品 | 本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥その他 | その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | <input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事の工程の順序 (解体工事のみ) | <input type="checkbox"/> 上の工程における⑤→④→③の順序 <input type="checkbox"/> その他 () その他の場合の理由 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工作物に用いられた建設資材の量の見込み (解体工事のみ) | トン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築物発生廃棄物の発生が見込まれる部分(注) | 種類 | 量の見込み | 使用する部分又は発生が見込まれる部分(注) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> コンクリート塊 | トン | <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アスファルト・コンクリート塊 | トン | <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> 建設発生木材 | トン | <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (注) ①収設 ②土工 ③基礎 ④本体構造 ⑤本体付属品 ⑥その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|-------|-------|--------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|--|-------|---|----|--|--|-----|-----|---------------------|-----|---------|------|----------------------|
| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <div style="text-align: right;">様式-3</div> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">通 知 書</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p>福岡市長 殿</p> <p>(工事発注者) 発注者職氏名: _____</p> <p>住 所: _____</p> <p>建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第11条の規定により、下記のとおり通知します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">連絡先</td> <td>所属名</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>担当者職氏名</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工事の内容</td> <td>工事の名称</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>工事の場所</td> <td>福岡市</td> </tr> <tr> <td>工事の概要</td> <td> 工事の種類 <input type="checkbox"/> 建築物に係る解体工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築又は増築の工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの <input type="checkbox"/> 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 (_____) 注1 </td> </tr> <tr> <td>工事の規模</td> <td> 建築物に係る解体工事 用途_____, 階数_____, 工事対象面積_____ 建築物に係る新築又は増築の工事 用途_____, 階数_____, 工事対象面積_____ 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの 用途_____, 階数_____, 積算代金_____ 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 積算代金_____ _____ 万円(税込) _____ 万円(税込) </td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td colspan="2">平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 工事着手予定日: 平成 年 月 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">請負者</td> <td>会社名</td> <td>_____ 現場代理人氏名 _____</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>〒 _____</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> <td>(内線) _____ FAX _____</td> </tr> </table> <p>空受付番号: _____</p> <p>注1) 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等の場合は工事の具体的な種類を記入する。 (例: 舗装、築堤、土地改良等)</p> | 連絡先 | 所属名 | _____ | 担当者職氏名 | _____ | 電話番号 | _____ | 工事の内容 | 工事の名称 | _____ | 工事の場所 | 福岡市 | 工事の概要 | 工事の種類 <input type="checkbox"/> 建築物に係る解体工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築又は増築の工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの <input type="checkbox"/> 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 (_____) 注1 | 工事の規模 | 建築物に係る解体工事 用途_____, 階数_____, 工事対象面積_____ 建築物に係る新築又は増築の工事 用途_____, 階数_____, 工事対象面積_____ 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの 用途_____, 階数_____, 積算代金_____ 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 積算代金_____ _____ 万円(税込) _____ 万円(税込) | 工期 | 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 工事着手予定日: 平成 年 月 日 | | 請負者 | 会社名 | _____ 現場代理人氏名 _____ | 所在地 | 〒 _____ | 電話番号 | (内線) _____ FAX _____ |
| 連絡先 | 所属名 | | _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 担当者職氏名 | | _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 電話番号 | _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事の内容 | 工事の名称 | _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 工事の場所 | 福岡市 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 工事の概要 | 工事の種類 <input type="checkbox"/> 建築物に係る解体工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築又は増築の工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの <input type="checkbox"/> 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 (_____) 注1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 工事の規模 | 建築物に係る解体工事 用途_____, 階数_____, 工事対象面積_____ 建築物に係る新築又は増築の工事 用途_____, 階数_____, 工事対象面積_____ 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの 用途_____, 階数_____, 積算代金_____ 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 積算代金_____ _____ 万円(税込) _____ 万円(税込) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工期 | 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 工事着手予定日: 平成 年 月 日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 請負者 | 会社名 | _____ 現場代理人氏名 _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 所在地 | 〒 _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 電話番号 | (内線) _____ FAX _____ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--------|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">参考-1 (別紙)</div> <p style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律に基づく 解体工事に要する費用等</p> <p>・ 解体工事に要する費用 円</p> <p>・ 再資源化等に要する費用 円</p> <p>・ 分別解体等の方法 <input type="checkbox"/> 手作業</p> <p><input type="checkbox"/> 手作業及び機械作業の併用</p> <p>・ 再資源化等をするための施設の名称及び所在地</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">特定建設資材</th> <th style="width: 40%;">施設名</th> <th style="width: 40%;">所在地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> | 特定建設資材 | 施設名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特定建設資材 | 施設名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 (案) |
|--------------|--|
| | <p style="text-align: right;">参考-2</p> <p style="text-align: center;">建設リサイクル法の概要</p> <p>1) 建設リサイクル法の経緯</p> <p>国においては、公共建設工事が建設副産物対策の先導的な役割を果たすべく、再資源化の推進と再生資源の積極的な利用を進めてきたが、建設廃棄物のリサイクルをさらに推進するために、「建設工事に係る再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)」を平成12年5月31日に制定、公布し、平成14年5月30日から全面的に施行された。</p> <p>2) 建設リサイクル法の目的</p> <p>特定の建設資材について、その分別解体等および再資源化等を促進するための措置を講じるとともに、解体工事業者について登録制度を実施すること等により、資源の有効な利用の確保と廃棄物の適正な処理を図り、もって生活環境の保全と国民経済の健全な発展に寄与することを目的としている。</p> <p>3) 分別解体等および再資源化等の義務付け</p> <p>①分別解体等実施義務(法第9条)</p> <p>特定建設資材(①コンクリート、②コンクリート及び鉄からなる建設資材、③アスファルト・コンクリート、④木材)を用いた建築物その他の工作物(建築物等)の解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等(解体工事以外の工事)であって、その規模が一定規模以上のもの(対象建設工事)の受注者(下請契約が締結されている場合の各下請負人も含む。)又は自主施工者は、施工方法に関する基準に従って分別解体等を行わなければならない。</p> <p>②再資源化等の義務付け(法第16条)</p> <p>対象建設工事受注者は、分別解体等に伴って生じた特定建設資材廃棄物について、再資源化をしなければならない。ただし、指定建設資材廃棄物(木材が廃棄物となったもの。施行令第4条)については、工事現場から一定距離(50km)の範囲に再資源化施設がない場合など、再資源化をすると受注者に過大な負担がかかる場合には、焼却等によりその容積を減らす(縮減)ことができる。</p> |

施工管理の手引き 新旧対照表

| 福岡市 現行 H30.4 | 福岡市 改定 R2.4 |
|---|--|
| <p>12 出来形数量計算書</p> <p>12.2 作成上の留意点</p> <p>(3) 出来高数量確認のために数量計算を行う。</p> <p>1) 数量計算の結果が出来高数量総括表に記入される。</p> <p>2) 数量計算は工事内訳書、明細書に記載されている契約数量に対して行う。</p> <p>3) 数量計算は出来形寸法によって計算する。この場合、出来形寸法が設計寸法に対し、土木工事施工管理基準及び規格値に定める規格値を満足していれば、出来高数量は設計数量とする。</p> | <p>12 出来形数量計算書</p> <p>12.2 作成上の留意点</p> <p>(3) 出来高数量確認のために数量計算を行う。</p> <p>1) 数量計算の結果が出来高数量総括表に記入される。</p> <p>2) 数量計算は工事内訳書、明細書に記載されている契約数量に対して行う。</p> <p>3) 数量計算は出来形寸法によって計算する。この場合、出来形寸法が設計寸法に対し、土木工事施工管理基準及び規格値に定める規格値を満足しているか否かを確認する。</p> |